

委員会等会議録（調査・研究概要）

平成29年2月6日

箱根町議会議長 様

総務企画観光常任委員会委員長

箱根町委員会条例第26条に規定する会議概要等(会議録)を作成したので報告します。

会議名		総務企画観光常任委員会
開催日		平成28年10月5日（水）
時間		午前10時30分 から 午前11時28分 まで
開催場所		第2委員会室
出席者	議会	山田成宣委員長、村野由紀子副委員長、川口延明委員、山田和江委員、西村和夫委員、沖津弘幸委員
	執行部	吉田企画観光部長、村山企画課長、伊藤企画課副課長、企画調整係 杉山主査
	事務局	片倉事務局長、鴻田
	傍聴者	公開・非公開の別：公開 傍聴者：なし
議事日程		日程第1 空き家対策について 日程第2 住宅補助について
会議概要		<p>1 概要</p> <p>日程第1 空き家対策について</p> <p>企画課長より、空き家バンクに係る宅建協会との協定締結について説明があった。今まで空き家・空き室等については、町ホームページにおいて情報提供していたが、紹介はするが契約は個人でお願いしていたため十分なものではなかった。そこで、10月中に宅建協会と協定を結び、更なる充実をしていこうとするもの。近隣では、小田原市、南足柄市、松田町、山北町、真鶴町が実施しており、大井町が準備中とのこと。まずは空き家の実態調査を実施し、意向確認等を行っていく。</p> <p>主な質疑等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家が多くあり、大家が近くに住んでいれば良いが、遠くにいる場合はどのように対応していくのか。 ⇒調査の中で所有者を確認し、意向調査も行う。制度の紹介も実施する等、効果的に行っていきたい。 ・若い職員に箱根に住んでもらうようにしていくべきではないか。 ⇒住宅手当の額に差をつけた。もっとPRしていきたい。 ・空き家については総務防災課においても以前調査を実施した。情報共有はされているのか。 ⇒情報共有しているが、調査から5年が経過していること。また自治会を通しての状況確認であったため、全てを網羅しているものではない。今回は、国の交付金も活用できるので、しっかり調査することとした。また、特定空き家へ

の対応も行っていきたい。

・調査を業者に委託するとのことだが、職員が行ったらどうか。

⇒職員ではなかなか踏み込んだ話ができないこともあることから、業者に委託することとした。2020年に向かって空き家をうまく活用できるよう、上手に関わっていきたい。

・荷物がそのままの空き家が多くある。荷物の片付けの支援等を行わないと、進まないのではないか。

⇒宅建協会の方から、活用のためのアドバイス等をしてもらう。

・箱根町の取り組みは、近隣の中で遅いのか。

⇒遅くはないけれど、早くもない。

・効果が出ている町はどこがあるのか。

⇒真鶴町、松田町、山北町はお試し居住等、力を入れている。

・高齢化が進む中、独居で家を持っている方は、今後どうしたらよいか悩んでいる人もいるが。

⇒社会福祉協議会で支援している。今後、福祉サイドとの連携を深めていきたい。

・空き家を持っている方で、売りたい人もいると思うが、対応は。

⇒売却も対応する。意向調査が重要と考える。

日程第2 住宅補助について

企画課長より、住宅補助について説明を受けた。新婚世帯や若者世帯の定住化施策として住宅取得補助、また町の人口増加及び定住促進により活力あるまちづくりを促進するため、定住を目的にリフォームする方に費用の一部を補助を行っていく。

主な質疑等

・家賃補助は大変喜ばれると思うので、企業にもPRをしっかりとしてもらいたい。

⇒企業を訪問し、説明を行う。家賃補助だけではなく、子育て支援についても周知していく。

・何年住まないといけない等の条件はあるのか。

⇒他自治体では設定しているところもあるが、定住を目的にと説明し、理解してもらうように努めていく。

・晩婚化が進み、40歳未満の設定では難しいのではないか。

⇒難しいところではあるが、地方創生でも20代、30代がターゲットとなっているため、40歳未満とした。

・現実的に、箱根から出て行ってしまう人がいる。箱根から通えるように、バスの早朝・深夜までの運転をクリアしなければならないのではないか。

⇒業者とも話をしていく。

・住宅取得補助とリフォーム助成は、併せて使うことができるのか。

⇒使うことはできる。